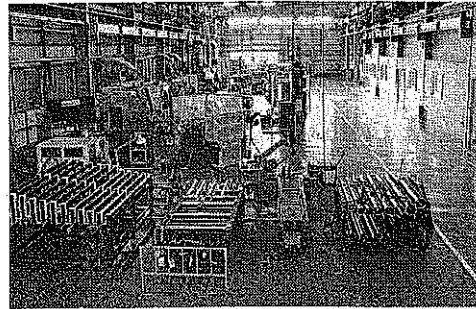


金型用油圧シリンダー大手の南武（東京・大田、野村和史社長）は、標準製品を生産する工場を浜松市に新設した。二〇〇八年四月から本格稼働し、月に二百本の油圧シリンダーを生産する。国内工場は本社に続き二カ所目。ダイカスト金型に組み込む同社の油圧シリンダーは世界的な自動車市場の拡大で、今後も需要増を見込んでいる。

油圧シリンダーの新工場

武南



災害リスク分散の狙いもある（浜松工場）

来春、本格稼働へ 月産200本体制

品を生産している。

○六年度は注文が急増、納期が倍に延びることもあり、一部の顧客が競合他社に流れた。本社工場は近隣が住宅地で拡張余地がない。

災害リスクを分散する観点からも浜松市に進出した。将来は浜松工場でも特注品を生産する計画だ。

同社は昨年、浜松市内の別の場所に修理サービス工場を開設。東海地区の自動車メーカーなどに同社が納入した油圧シリンダーの保守・修理を始めたが、修理には一定の技術力が必要なため当初の計画を変更した。

同社の〇七年九月期の売上高は二十一億円で、

浜松市内に延べ床面積約千二百平方メートルの工場を借り、数値制御（NC）旋盤など約六千万円分の設備を導入した。現在の従業員は七人で、製造現場に五人配属した。本社工場から技術者出張サービスで送り、油圧シリンダーの加工や組み立てな

ど、複雑な形のダイカスト铸件を成型できる。本社は特注品を生産する一方、タイのバンコク近郊の工場では標準的な油圧シリンダーや、本社工場に輸出するシリンダー部

と、技術力を向上させる。来年四月に製造に携わる従業員を十人程度まで増やす方針。

同社は自動車のエンジン部品などを大量生産するためのダイカスト金型に組み込む特殊な油圧シリンダーが主力製品。同社のシリンダーを使う

半分は海外向けが占め、山善とインド向けの販売。このほど機械商社の代理店契約を結んだ。